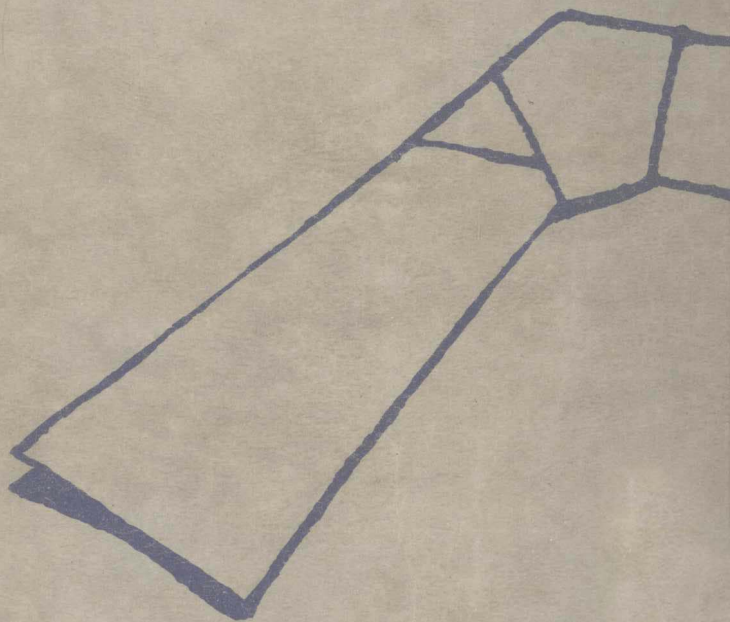


極道まんが

永六輔



極道まんがら

永六輔

昭和四十六年四月一日 第一刷

極道まんだら

定価 五百円

著者 永 六 輔

発行者 檜 原 雅 春

印刷所 大 日 本 印 刷

製本所 大 口 製 本

東京都千代田区紀尾井町三

発行所 株式 文 藝 春 秋 会 社

電話東京(〇三)二六五一二二(大代表)

郵便番号 一〇二

万一落丁乱丁がありましたらお取替えします

口 上

東京放送（ラジオ）の調査結果によると、三十代主婦の支持が一位なのは永六輔ということになっている。

永六輔というのはなんと僕である。

つまり、僕は三十代主婦から理想的な夫、そして父親として認められていることになる。

明るくて、優しくて、正義漢で……ということなんだそうだが、これはあくまで虚像であって、実像はそんなものではない。

心ひそかに極道に憧（こころ）がれ、チャンスがあつたら妻を捨て、子を捨て、あてのない旅に出ようと虎視眈々なのだ。

従つてこの本は僕の極道修業の副産物。

日本中、北から南と極道の達人を訪ね、いかにして人生を自由に生きているかという点を親しく御教示願つた、その聞き書きである。登場する方は皆さん、実在の紳士。

人格者で、粹（いき）で、「色（いろ）でしあげたこの身体」という通人揃い。

僕の極道志願を励まし、その前途を祝福して下さった。

渥美清に仁義も教わった。

「私、生れは神田、育ちは浅草です。ニコライの鐘の音響くお茶の水、順天堂病院の分娩室で産湯をつかいました。根っからの江戸っ子。姓名の儀は永六輔、人呼んでオッチョコチヨイの六と発します。この度、故ありまして、オール讀物連載『極道まんだら』まとめます。新参の身もちまして来し方いちいち高声に発します失礼の儀、何卒お聞き流しの上、よろしく御鞭撻のほど、この席借りまして、伏してお願ひ奉ります」

そして渥美清にこうもいわれた。

「永ちゃん、極道の話を聞いたからって極道になれるもんじゃない。早い話があたしが芋を喰って、あんたが尻をするか？」

……さて尻が出来るか、出来ないか。

永 六輔

目次

大正12年9月1日ノ 大震災でグラグラゆれている最中に 芸者を
抱きよせた芸人…………… 桜川びん助サン

妻を売ったが一回 捨てたのが六回 構えた妾宅二十五軒 警察の
ご厄介は百二十四回 鹿兒島のぼっけもん…………… 吉井勇吉サン

極道しようと思うたら 人間の頭蓋骨をボリボリ これが一番でん
ね 最後の仁輪加師…………… 一輪亭花咲サン

徹夜の激闘ノ 地震の急所攻めノ 恐怖の連続技十一回ノ 女体大
悶絶ノ 極悪非道の…………… ミスター珍

痛い痛いというのに純潔を奪われたのが始まりで 男の数が千人と
いう男性…………… 曾我廼家桃蝶サン

大正年間の競輪日本一 津輕めらしこの憧れだった 芸者泣かせの
すっ飛びコト……………飛島直吉サン

東山三十六峰 静かに眠る丑三ツ刻 突如として起こる男女の激闘
大阪の活弁……………高橋鶴嚙サン

三月三十一日は赤線消滅記念日 十三年前の恨みもあらたな 博多
の……………居残り佐平治サン

女に乗りこまれてテレビスタジオを逃げだし ホテルで自分の出て
来ないホームドラマをみていた……………浮世亭歌楽サン

女を叩き売って恨まれるようじゃ無職渡世人じゃありません 別荘
暮し四十年の老博突打ち……………中村金造サン

オチンチンなア あれ使うてへるもんやったら 形が残ってへんほどやりました 助平界の第一人者……………紙切平サン

火事と喧嘩は江戸の華 十三の年に梯子に乗り ついでに女にも乗った花川戸ち組の……………桶田弥三郎サン

女は押し倒して 乗っかっちゃえばいいんです 強姦をすすめる……………橘家円蔵サン

男はんは四十二歳になるまで遊^{あそ}んだらええのんどすえ 京都先斗町その昔の……………豆弥姐サン

太平洋戦争下の南の島で トラックに満載の女を買い ビールは急降下で冷やし 敵機来襲で賭をした海軍士官……………今泉中尉

江戸ッ子が楽しんだ世界最初のカラー・シネマスコープ 写真極道を語る 江戸写し絵の………小林源次郎サン

219

オットセイのキンタマを喰って 太平洋に青春を賭け 今は小笠原の飯場に生きるライフルの………富岡源太老

233

十二歳から放浪 シベリアでロシア革命を見物 帰っては風呂屋の三助と 好きなことをやったミルクワンタンの……藤波音吉サン

247

多少黒ずんでしなびているけど あたしのモノでよかったら 若い娘の性教育に使って下さいという………桂文治サン

261

口上で極道になってみせるといったのに 長いあとがきを書いてそれを誤魔化そうとする………永六輔サン

275

極道まんだら

大正12年9月1日 //

大震災でグラグラゆれている最中に芸者を抱きよせた芸人

梅りん外サン



桜川びん助サン、夫人の美代鶴サンと組んで粋な漫才をしたり、梅坊主直系の「深川・かつぼれ」を受けついだりしているが、名古屋での長い幫間時代（はうかん）がものをいって座敷芸の名人、そして千三百二十人までは数えたが、その後は忘れちゃったという女性遍歴の達人でもある。

○

驚きましたね、家のそばの連れこみホテルの看板に動くベッドって書いてあるン。エートね、エート、イタリア式ローリングベッドか、横ゆれするらしいんですな。重なつてからボタンを押すとグラグラする。へへッ、いえね、私も経験がないことはない、やだよ、七十三です。

昔、大昔の話です。大正十二年の九月一日、あン時に私は三浦三崎の料理屋の二階で芸者あげてスチャラカチャンチャン、えエもう昼間つからというより朝つからのスチャラカ。そこへグラグラッときた、はなはこつちが暴れすぎたかと思っただけ、そうじゃ

ない。地震だぞってことになった時にはこの家がくの字になって丁度二階の座敷が玄関を押しつぶしちゃった。玄関には買ったばかりの私の下駄がある。この下駄が惜しいってんで畳はがして、瓦はずして、天井板めくったら、可哀そうにベチャンコだ、その下駄右手に持って左手には芸者をかかえて山の中へ逃げこんだ、気分は落ち着いたが地面のほうはまだゆれている。そこで、どうだい、こうやって地面のゆれてるうちにやってみようよということになりました。昔の芸者は粋なもんです。その時にやりました、ええ、結構なもんです、イタリア式は知りませんけれどもこちらは関東大震災式でエンで……。

さて、生れた家は材木屋です。

横浜市長者町一丁目金沢屋っていう何しろ大きな材木屋のお坊っちゃまだから小学校へ行くんだって人力車です。半サソでエ梶棒かじぼうが毎朝家の前につけるってエとさして遠くもない学校へイヨッとかけ声かけて出かける。途中に弁護士の家があつてここのお嬢さんも乗つけてく、雨なんぞ降ると幌ほろをかけるから中で袴はかまの下へ手エ突つこんだりするン、と半さんが、「お坊っちゃま、車の中で動くてエと引きにくくってしようがねエから静かにして下さい」冗談じゃねエ、減多に雨なんぞ降らないんだから楽しめる時に楽しまなきゃ、え、ませてる？ どうして小学校二年ですよ、そのくらいのことするでしょう。

三年の時だつた、京マチ子が二〇三高地のつけてると思つて下さい、これが音楽の先生で、いい女だった。この袴の下に手を突つこんだら、当時はサルマタなんぞはいてない

から、モロににぎっちゃって、これが又毛深かった、へへッ！で、にぎっちゃったン。でも私は真面目だったから学校が終ると夜は夜で英語の学校へ行きましてね、チョイス・リーダーの六までやった。チョイスの六だったってわかつて貰えないでしょうけれど、明治時代に英語を習った方ならびん助もたいしたもんだと思いますよ。

それというのもニューヨークへ行く筈だったからで、いえね、おふくろの恋人が貿易をやってまして、ニューヨークで丁稚奉公させようといってくれたんだけど、親父がヤキモチをやいてペケになっちゃった。

時々考えるんだけど、どうも私は親父の子供じゃなくて恋人の方の子供みたいな気がするねエ、十二人生んだんですから、その内一人ぐらいはいたっていいでしょ、このおふくろ九十三歳で元気です。一度そこんとこ聞いてみようと思ってるんですけど、今さらおふくろを照れさせる年でもないし、でも、やっぱり聞いておこうかな、ウン、今度、聞いておこう。

○ この話はあるうなぎ屋の座敷で聞いたのだが、料理が運ばれてくると、その度に「いよッ、こりゃ、大変な器ですよ」とか「おかみさん、その帯止めはわけありでしょ」などと誰に対しても一分のすきもない気の配りよう、その呼吸がチャーンと芸になっている。

中学は神奈川中学、これはね、入った日に英語の大塚先生をはり倒してすぐやめましたよ。横浜でグレンタイなんてエ言葉がはやりましてね、グレンタイてエのは横浜の言葉です。私もアチラの活動なんぞに熱をあげて、メーベル・ノーマンド、チャップリンの相手役ですけれど憧れあこがれましたねエ、この人が画面に現われるとチンボコにぎりしめて息もしねエでみつめてたもんだ。

十六の年に爺サンに連れてかれて深川の木場へ奉公に行つた、あの頃は材木屋の若旦那でも五年は木場で奉公したもんです。その店が井筒屋、ミヨちゃんという娘がいましたね、私が酒は飲まない、博奕ばくちもしない真面目な坊やだとわかつたから養子にならないかつて話になつた。

ところがこの店に女中奉公に来ていた深川の菓子屋の娘でイトイタカヨてエのと、本所の方の勤め人の娘のサイトウフジコというのがいて、このタカヨとフジコを私がいた、いぢまつた、これは主人が怒りました。

ミヨちゃんと夫婦約束をしておいて、他に二人の女とひとつ屋根の下で寝るとは何事だ、これはチョット不真面目じゃないか、このチョット不真面目がいいでしよ、大変不真面目じゃないんだから。許して貰つたところで兵隊検査、赤坂第一連隊に入隊しましてね、私ア調子がいいから入るなり雑巾や帚ほうきを持って掃除なんかしちゃつたら、隊長の従兵になれてん。

第一連隊第三大隊第十二中隊でんですけど、この中隊長が陸軍歩兵大尉で阿南サン、え
エあとの陸軍大臣の阿南サン、あの切腹した。えエ、立派な方でした。あの方の靴みがい
たり、^{ふんどし}褌を洗ったりしたんです。

二年いて除隊しまして又一年間、井筒屋で礼奉公をしたら百円貰いました。この百円を
持って吉原に出かけてドンチャン騒ぎ、若い男が百円札を持ってっているってんで、山谷の警
察から調べに来ました。一晩でスッテンテン。夫婦約束のミヨちゃんとは泣き別れ。それ
からそのまま東京に残って寄席^{よせ}通いに夢中になりながら材木屋を開業するわけです。

二十二歳で新宿に材木屋を開いて八丁堀の米屋の娘を嫁にもらいました。たしかにあれ
が最初の嫁だと思ふ、えエ、その次が高円寺の店、これは立派な店で本郷の大王の娘をか
みさんに貰った。その次が厩橋^{うまはし}のコンニャク屋の娘で、エート……毎年嫁サンが来てたか
ら順序がわかんなくなっちゃった。

でもこのコンニャク屋は後に湯河原で芸者に出まして、その娘も芸者、えエ、私が親父
ですけれど、おかげ様でいい旦那が出来て幸福のようです。芸者というのは馬鹿にされる
時もあるけれど情を尽して、いい旦那を離さないようにすれば、こんな結構なことはあり
ません。

それでと、それで材木屋三軒の主人ですから錢はあります。道楽で寄席に通って噺家^{はなしか}の
真似事をやっている、着物なんぞいくらもあるから、その着物目当に噺家がヨイシヨして